

平成 27 年度 自己評価表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標 (学校ビジョン)	キャリア教育に重点を置き、地域の中で職業的に自立するとともに、主体的に活動、社会参加し、社会に貢献できる人を育成する。そのために、学校生活の基礎基本を確立し、主体的に活動しようとする意欲を育てる。
-------------------	--

今年度の 重点目標	○基礎基本の確立と、意欲の涵養 ○社会人としての基礎力の育成 ○進路保障と社会参加への支援
--------------	---

評価項目	年度当初				中間評価			
	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 改善方策		
○基礎基本の確立・意欲の涵養 ○社会人としての基礎力の育成 ○進路保障と社会参加への支援	教務部	○各分掌の運営がスムーズに行えるように会議や連絡の調整を図る。 ○教科年間指導計画の見直しと修正。	○3学年揃って職員も増え、放課後に会議が集中し、調整が十分できていない。 ○全学年の計画は作成したが、実際に活用するのは今年度が初めてである。	○早めに日程調整ができ、各分掌運営がスムーズにできている。 ○指導内容の修正や学年間の系統性が見直しできている。	○各部担当者との連携を密に図り、月行事等の一覧表にもれないよう記載をする。 ○学科、教科会と各担当教科で修正、検討を実施	○事前の日程調整は可能な限り、カレンダーにして提示。放課後の会議の調整は十分とはいえない。 ○各教科で運用しながら、検討中、年度末には完成予定。	B B	○各担当者の提案を整理し、連携をとりながら調整に努める。会議は、可能ならば放課後でない時間の活用を模索する。 ○各教科担当で運用をしながら継続して修正、検討を行う。
	学習部	○「全体計画」「年間指導計画」の見直し修正及び次年度の年間指導計画の作成(人権教育・道徳教育・福祉教育・図書館教育) ○授業づくりプロジェクトの実施 ○図書館教育の充実	○全体計画は人権教育・道徳教育は作成済みである。 ○年間指導計画については、人権教育・図書館教育は作成済みである。 ○授業づくりプロジェクトを通して『琴の浦の授業』について共通理解を行う必要がある。 ○図書館教育に関しては生徒や職員が活用しやすい図書室経営の充実を図る必要がある。	○「全体計画」「年間指導計画」の修正及び来年度分の整備が完了している。 ○各教職員が、授業づくりプロジェクトの取り組みを通して、本校における学力向上に向けた取り組みを理解している。 ○各種掲示やイベントを予定通り実施し、昨年度より貸し出し数が増加している。	○未作成の全体計画及び年間指導計画に関しては、学習部長が原案提案し、各職員で検討し作成する。 ○すでに作成されている全体計画及び年間指導計画作成については学習部長を中心に各職員で修正検討を実施する。 ○授業づくりプロジェクトを実施しその取り組みを充実する。 ○提示やイベントを実施し、貸し出し冊数を増やす。	○図書館教育、福祉教育の全体計画作成中。交流教育の交流の手引きの作成を検討中。 ○授業づくりプロジェクトは、前期実施したが、限られた人による参観だった。 ○図書室コーナーの展示、図書室クイズのイベントを継続して実施。前期多読者の表彰。	D	○授業づくりプロジェクトでは、進め方や授業者及び参観者の動きが、視覚的に分かるより詳しいものを提示して、一人でも多くの人が参観できる体制作りをしていく。 ○自主研修会の計画と実施(昨年度のアンケートを参考に、本年度も職員の希望を優先し、計画していく) ○図書室コーナーの計画的な運営に努める。 ○学校生活アンケートとの考察を生かした取り組みを進める。
	学科部	○地域との連携先の拡充 ○基礎的・基本的な生活習慣の習得 ○専門的知識や技術の習得	○3学年が揃い、現況のままの連携状況では手狭間がある。また、カフェ運営も2つの学年が単独で行うためには集客の工夫が必要である。 ○まだまだ基本的な挨拶や対応方法が定着しておらず、特に来客者への対応が積極的でない。 ○コースによって技能検定項目が設定されつつあるが、全コースではない。	○連携先が増え、各学年が地域に出向くことができている。また週2回のカフェ運営がスムーズにでき、かつ全コース間の連携ができている。 ○廊下でのすれちがい時や、教室中での見学者・来客者等に積極的に挨拶できる。 ○校内技能検定を、全てのコースごとに実施する。	○新たな生産農家や企業を開拓し、調整を図り作業体験ができるようにする。 ○年度当初から、全コースで職員が中心となって積極的に見本となる動きをすることで、生徒が取組やすい雰囲気を作る。 ○昨年度実施したものをふまえ、生徒の達成しやすい目標を考えた検定を作成し実施する。	○カフェ客数も落ち着きつつある。出張カフェも町との連携で実施できている。農家連携先が複数確保できた。複数のコースが地域との連携を増やすことができた。 ○継続的な指導を各専門で行うが、学年によってばらつきがある。 ○検定を試みているが、コースによっては具体的な検定作業が見つからない	B	○生徒数に応じた連携先数をほぼ確保できた。次年度継続事業としたい。 ○異なる場面でも抵抗なく挨拶できる練習を反復して行う。 ○具体化できない作業検定に代わって知識検定を取り入れてみる。
	指導部	○規範意識の向上 ○地域で挨拶ができる生徒の育成	○校則や交通規則の大切さは知っているが、実践できない面も見られる。 ○登下校中の自発的な挨拶が苦手。	○校則違反や交通事故の減少 ○登下校中に出会う地域の方や来校者に自発的に挨拶ができる。	○校則や交通規則をわかりやすく提示できる工夫(スライド教材や掲示物) ○教師自ら実践、巡回して啓発を行う	○処分事例件数は昨年より増加。 ○交通安全スライドについては作成済み。各学年での活用方法を検討。 ○朝の挨拶運動や駅での下校指導時に挨拶指導を実施中。	C	○校則の周知について、方策を検討し実施する。 ○登下校時の挨拶の指導を継続する。
	学年部	○積極的に挨拶が出来る生徒の育成 ○互いを尊重し合うことのできる人間関係形成	○朝や校内で出会ったときの挨拶の習慣は付きつつあるが声の大きさ姿勢等更なる向上が必要である。 ○概ね落ち着いた生活を送っているが、障がい特性や関わり方の技能の未熟さ等様々な理由から、他者との関わりの中で自己中心的な発言や、相手の意図をくみ取れないことによるトラブルがある。	○80%以上の生徒が自分から挨拶をする。 ○言語環境が整い、どの生徒も安心して学ぶことができる雰囲気がある。	○登校時は玄関に立ち挨拶を行うとともに、月1回程度挨拶の様子を集計し、生徒にも示す。 ○相手の名前を正しく呼ぶ、正しい言葉遣いで接することを励行する。 ○自分を見つめたり行動を振り返ったりする学習を計画的に設定し、自己理解を進める。	○登校時の玄関での挨拶指導を継続したが普段の挨拶について満足いく声の大きさや姿勢で出来る生徒は33%であった。 ○自己理解については進路の学習や性教育などにおいて取り扱った。特に3年生は進路と関連させて自分のことを語る事ができる生徒が多かった。	D	○挨拶については根気強く挨拶指導をする。機会を捉えて話をし、自分からしようという気持ちを耕していく。また、言葉遣いについても職員から環境を整えていく。併せてからかい等いじめにつながる言動についても担任等が実態に応じて話をするなど好ましい行動を取ろうとする心情を培っていく指導をしていく。
	保健部	○肥満にならない生活習慣の定着 ○基本的な食事のマナーの定着	○肥満の生徒が多く、県平均の2倍の出現率である。 ○食事のマナーの悪い生徒がいる。(肘つき、食べながら喋る、犬食いなど)	○肥満指導対象生徒について過食しない生活習慣が定着し、4月体重より減量または4月体重を維持している。 ○給食指導を通して、まわりの人が不快にならない食事マナーが定着している。	○体重測定の継続と繰り返しの保健指導による生活の改善(保健室、栄養士、家庭科の連携) ○給食中の繰り返しのマナー指導(全職員) ○教科連携(家庭科、職業)	○肥満指導により生徒の意識の変化、指導の効果があらわれている。 ○給食時の手順書の内容の指導が学年・クラスによってばらつきがある。	C	○養護教諭、寮、家庭による肥満指導の継続 ○生徒、教員に対して給食手順書の定期的な内容確認、全職員による給食指導
	寮務部	○寄宿舎マイスター制度の活用	○マイスターの昇格期間を短くしたことで、舎生が自分の目指すべき姿について、見通しを持ち意欲的に取り組むことができるようになった。	○3年生がゴールドマイスターを獲得し、社会生活に必要な力を身につけて卒業する。	○マイスターのチェック表を基に手立てを考える。 ○講座(社会自立)を開設する。 ○1、2年生への指導をしっかり行うことで、3年生に先輩としての自覚を促す。	○マイスター制度の達成目標はほぼできたが、チェック項目を簡略化したことで見直しが必要となった。	B	○マイスター制度のチェック項目の見直しをする。
	進路部	○進路保障と社会参加への支援	○本年度、初めて卒業生が出るため、流れができておらず、今後関係機関と連携を取りながら、進路先の確保を進めなければならない。	○すべての卒業生の進路先が確保されている。	○進路情報を生徒・保護者へ提供できるよう工夫する。 ○進路面談等、できる限り生徒・保護者との相談を多く取る。 ○職場開拓、現場実習を積極的に行う。 ○ワーキングフェスタinことのうらを開催する。 ○関係機関との連携を取りながら、流れを整理する。	○懇談時等で保護者へ情報提供しているが、教員への進路情報の機会が少なく、充分とは言えない。 ○計画的に進路面談を実施している。 ○就労サポーターを中心に職場開拓を日々行っている。 ○ワーキングフェスタinことのうらを実施した。 ○就職に向けての流れを関係機関と連絡を取りながら進めている。	C	○定期的に学年会に進路部が入り込み、情報提供を密に行う。 ○懇談等を利用して保護者への情報提供を続ける。 ○すべての卒業生の進路先が決定するまで、粘り強く支援する。 ○就職に向けての流れを関係機関と連携して作り上げる。

様式 2

	○キャリア教育の推進	○昨年度はキャリア教育とはどうい うものか研修を行った。	○キャリア教育推進委員会の 主導の下、統一した生徒目標 を達成するために教職員が指 導に当たっている。	○キャリア教育推進委員会を定期的 に開催し、評価・取組の見直しを図 る。	○挨拶・返事に力点を置く ことは意識され、授業での 挨拶・返事は大きくなって きたが、休憩時間等の挨拶 は不十分。	C	○キャリア教育推進委員会を 定期的実施する。
支援部	○生徒情報の会の充実 ○入学予定者を対象とした入 学前体験「ウエルカム琴の浦」 の実施	○情報共有はできつつあるが、支 援の共通理解と役割分担を明確 にしていく必要がある。 ○昨年度試験的に実施をした。	○支援策の役割分担が明確 で、職員間で共通理解できて いる。 ○参加した入学予定者の8割 が、実施後のアンケートで活動 に満足したと回答する。	○誰が何を支援するのがわかるよ うに記録をとり、翌日の朝礼で提示す る。 ○入学前の不安を軽減し、入学後の 生活に見通しを持てるように内容を工 夫する。	○支援策検討の役割が不 十分。会の報告は翌日の 職朝で提示し、全体に関わ ることは口頭で報告をし た。 ○体験の内容について、 学年団からの意見も聞きな がら計画を立てていく。	C -	○学年部と連携をして、ピック アップする生徒について打ち合 わせをしたり、検討した支援策 の進捗状況を確認したりする。
総務部	○積極的な情報発信と保護者 や地域との連携強化	○昨年度、保護者の参加日等参 加率は5割強だが学年によって差 がある。PTA活動への役員・部員 としての参加率は3割程度である。 ○地域ボランティアを立ち上げ、 地域との関わりが増えつつある。	○参観日等の参加率5割以上 を維持し、可能な限り学年差を なくす。 ○地域ボランティアを活かした 新規取組をスタートする。	○参観日や学校からの情報発信に関 するアンケートを実施・分析の上、対 策を検討する。 ○ミニ参観日(参観おすすめ授業の 案内)、校長室談話会、進路指導室 開放の実施。 ○ボランティア数を増やし、情報収集 を行う。	○参観日アンケートを実施 し、分析中だが、大まかな 傾向から、11月に参観 ウィーク、校長室談話会、 進路室茶話会を計画。 ○ボランティア増員への取 り組みは未実施	C	○アンケート分析結果をもと に、参観日の取り組みを工夫 する。 ○ボランティア増員を目指し、 地域への文書の配布等を行 う。

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標○方策の見直し [30%以下]